

令和 4 年 6 月 24 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02553

研究課題名（和文）「インド版日本型学級経営モデルと尺度」の開発

研究課題名（英文）The Development of "New Japanese Models of Classroom Management for Health and Safety" in India

研究代表者

石川 美智子 (Ishikawa, Michiko)

常葉大学・教育学部・教授

研究者番号：30733258

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は「インド版日本型学級経営モデルと尺度」の開発である。インドの教師に、日本の学級経営尺度・通常学級のインクルーシブ教育の尺度やインタビュー調査等を行い検討した。

その結果、インドの教師は、日本型教育の児童との関係を大切にしながら、個と集団に焦点をあてた学級経営が必要であること、また、高い教師の姿勢が確認された。それ以外に、「家庭環境理解と配慮」による「個人的教授効力感」への影響が大きいことが明らかになった。インドの教師は、日本型教育の「児童生徒理解と学習集団作り」「家庭環境理解と配慮」を取り入れ、通常学級におけるインクルーシブ教育や学級経営を促進する必要があることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドは児童の低い初等教育修了率、日本の教師には多忙化・多文化共生教育という課題がある。本研究の結果、児童理解を踏まえた日本の個と集団の育成といった人格面の教育が、インドの低い修了率の改善に役立つであろうと考える。

また、インドは多様な言語・文化を持つ多様な国である。「インド版」の開発によって多文化共生社会を迎える日本にとって教育の方向性を得ることができると考える。さらに、日本の教師の多忙化解消も期待される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to "develop an Indian version of the JCM (Japanese classroom management) model and scales. Newly appointed teachers in India were surveyed through questionnaires and interviews using the JCM model, including inclusive education scales for regular classes. As a result, it was revealed that Indian teachers need to value the relationship with children and to focus on "the individual" and "the group" in their own classrooms. The study also confirmed the high level of teacher attitude: (1) to take their own pleasure in the changes and growth of pupils and students, (2) to have a sincere attitude, sense of mission, and cheerfulness as teachers, and (3) to have an attitude of learning from their mistakes. Furthermore, "understanding and caring for the home environment" have an impact on their "personal teaching efficacy". This study showed that Indian teachers need to promote classroom management and inclusive education by adopting Japanese-Style Education.

研究分野：日本型教育トランスファー（移転）

キーワード：インクルーシブ教育 日本型教育 個と集団に焦点した教育 生活指導 教育相談 家庭環境配慮 通常学級

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

初等教育を受けていない児童が、世界で1億400万人おり、そのうち4分の1がインドにいとされている(FEE,2008)。「男女の識字率の格差10%以内」が目標であるが2015年までに達成されていない。インドにおいて教育の量・質の面での改善が大きな課題である。そのような中、インドのモディ首相は、「日本の小中学校制度をモデルとして導入したい」と述べている。これまでに、日本の企業によるインドの職業訓練校への参画はあるが、大学による小学校教育の学術的アプローチは見あたらない。

一方、日本においても教師の多忙化解消は喫緊の課題である。また、インドは多様な言語・文化を持つ多様な国である。「インド版」の開発によって多文化共生社会を迎える日本にとって教育の方向性を得ることができると考える。これらの背景を踏まえ以下のことを目的とした。

本研究の目的は、インド版日本型学級経営モデルを開発するために、インド小学校教師を対象に

- ① 「インド版日本型学級経営尺度」を開発する。
- ② 学級経営についてどのように考えているか、どのような実践を行っているか明らかにする。
- ③ 日本の通常学級におけるインクルーシブ教育指導尺度を開発し、インドと比較し実態を明らかにする。

2. 研究の方法

カウンターパートナー：インド連邦政府立ポンジェシャリー大学(ポンジェシャリー・インド)、キリスト(バンガロール・インド)大学

(1) 「インド版日本型学級経営尺度」の開発

インドの小学校教師300名(165名の女性,135名の男性。これは、インドの小学校教師の男女比と同じである)を対象に、日本の学級経営尺度の確認的因子分析を行い、「個と集団に方向性をもたせる学級作り」「教師としての姿勢」、「個々の児童理解」という変数の妥当性を検討し、インド版日本型学級経営尺度を開発する。

そのうえで、両国における学級経営の機能を比較するために下位因子と全体をt検定で分析する。

(2) インド教師へのインタビュー調査

本研究では、インドの小学校教師が学級経営についてどのように考えているか、どのような実践を行っているかを調査する。公立・私立小学校29名を対象にインタビュー調査を実施し検討する。

(3) 日本とインドの通常学級におけるインクルーシブ教育

特定の認知の知的機能を表すWISC-IV指標と学習指導要領(文部科学省、平成29年度)で定められた通常授業の難易度指導の計画や方法について、学生に説明しその感想から質問項目を作成した。それを日本では661名の小学校教師を対象に、調査分析し、信頼性・妥当性を検討し日本の通常学級におけるインクルーシブ教育学習指導尺度を開発する。そのうえで、インドの306名の小学校教師にもこの尺度を実施し、変数の妥当性を確認する。そして、日本とインドの2集団を比較する。

3. 研究成果

本研究の成果と課題を3点に分けて整理する。

(1) 今後の課題 インドと日本ミックスモデルの実践の必要性

本研究は、インドの教師を対象とした概念モデルである。この概念モデルをインドと日本の教師が協働で実践しながら学び合うことが重要であろう。本研究を通してモデルの紹介を行ってきた(写真)。さらに、実践しながらひろげる必要がある。



写真

International Seminar on Developing the Japanese Style Classroom Management Model in Japan and India" Pondicherry University jointly Seminar(ポンディシエリ インド)) (2019)8月5日



写真

International Seminar in Subramania Bharathi Higher Secondary School(招待講演)(2019)7月28日(ポンディシエリ インド)



写 真
Tony Sam George 博士（インドキリスト大学人文社会学部学部長）が
表敬訪問および授業の中で、「インドの学校と教師」について講演



写 真
Asia Pacific School Psychology Association International
Conference on School Psychology the science program,
(招待講演) (2020)2月12日(コロンボ スリランカ)

つまり、インドの教師は日本型教育の特徴「個々の児童理解」「個と集団に方向性を持たせる教育」,「家庭環境理解と配慮」の学級経営を実践し検討する。また、日本の教師は、インドの教育の特徴である高い「教師の姿勢」を理解し検討する。それにより、異なる文化をもつ人々を理解し、国際化した社会の中で生きる個人としての価値観を形成できる一助になると考える。両国教師自らがこのような能力を育てることにより、国際社会において、主体的な行動や多文化共生社会の教育ができるであろう。それは、日本・インドにとって、持続可能な学校・社会の形成に寄与することになると思われる。

(2) インド版日本型学級経営尺度の開発によって
インド版日本型学級経営尺度の結果を示す。

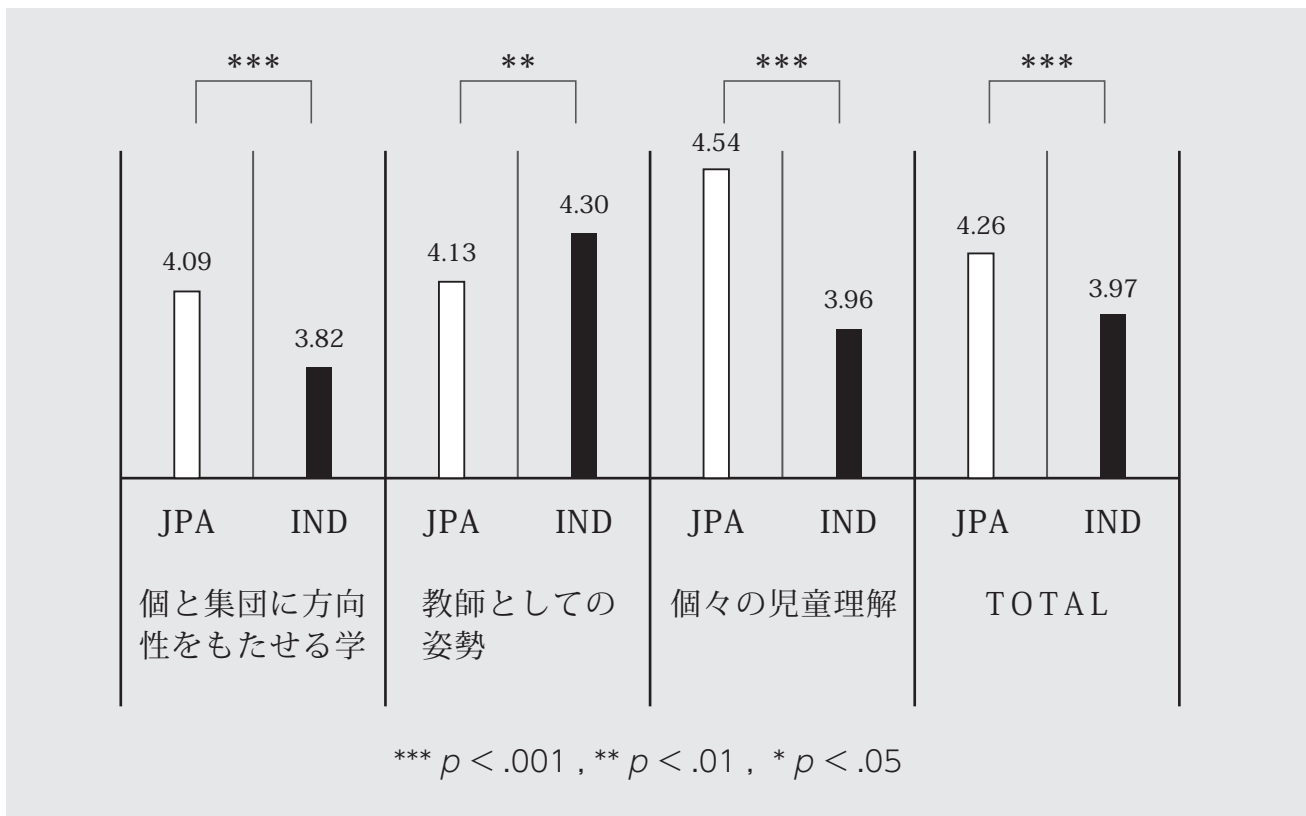


Figure 1 日本とインドの日本型学級経営尺度と下位因子の分析

下位因子「教師としての姿勢」は

- ① (新任) 教師として、児童生徒の変化や成長を自身の喜びとしている,
- ② (新任) 教師として、誠実な姿勢や教師としての使命感, 明るさを持つようにしている,
- ③ (新任) 教師として、失敗から学ぶ姿勢を持つようにしている,

などで、インドの教師の前向きな姿勢が明らかになった。

日本の教師は、児童との関係を大切にしながら、個と集団に焦点をあて、学級経営をしていることが明らかになった。

期待されること

インドの教師は日本型教育の特徴である「個々の児童理解」し「個と集団に方向性をもたせる学級作り」について、理解する必要があることが明らかになった。このことは、個人を育てるインドの教育に、集団での協働的学びを加えることにつながる。インドの教師が、個々の児童理解による協働的学びの必要性や良さを理解すれば、インドで必要とされている、時には個人の利益よりも、集団の利益を優先させる社会の実現につながるであろう。また、憲法で禁止されているカースト制度による差別禁止の効果を上げ、よりよい共生社会になる可能性がある。さらに、今後繰り返されるであろう感染症拡大において、他人を配慮した行動がとれるようになり、持続可能な安全な社会の実現につながると考える。

(3) インド教師へのインタビュー調査。

インドの小学校教師が学級経営についてどのように考えているか、どのような実践を行っているか結果図を Figure 2 に示す。なお、日本と比較するために日本の学級経営 (石川・松本, 2018) も示す。

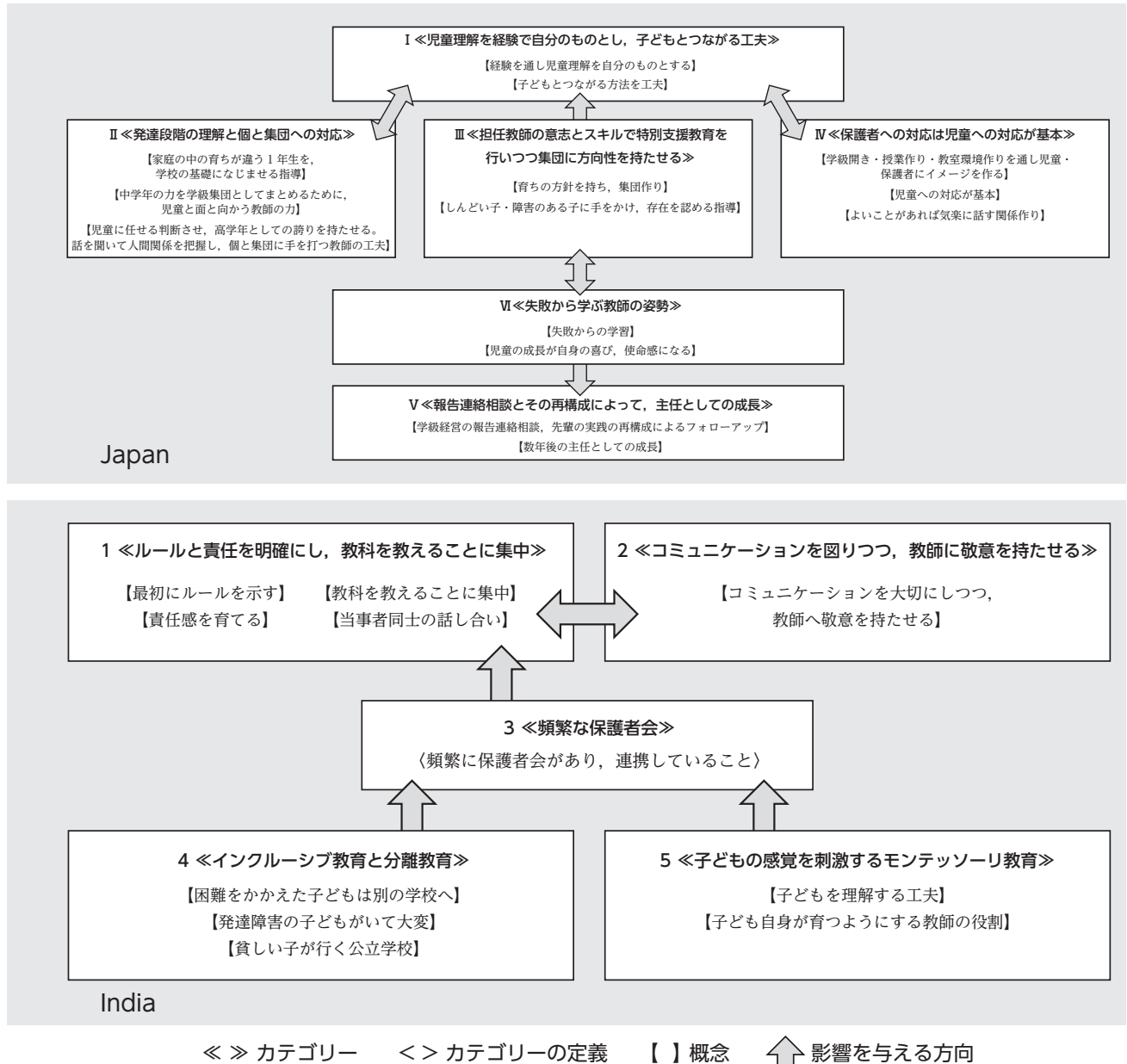


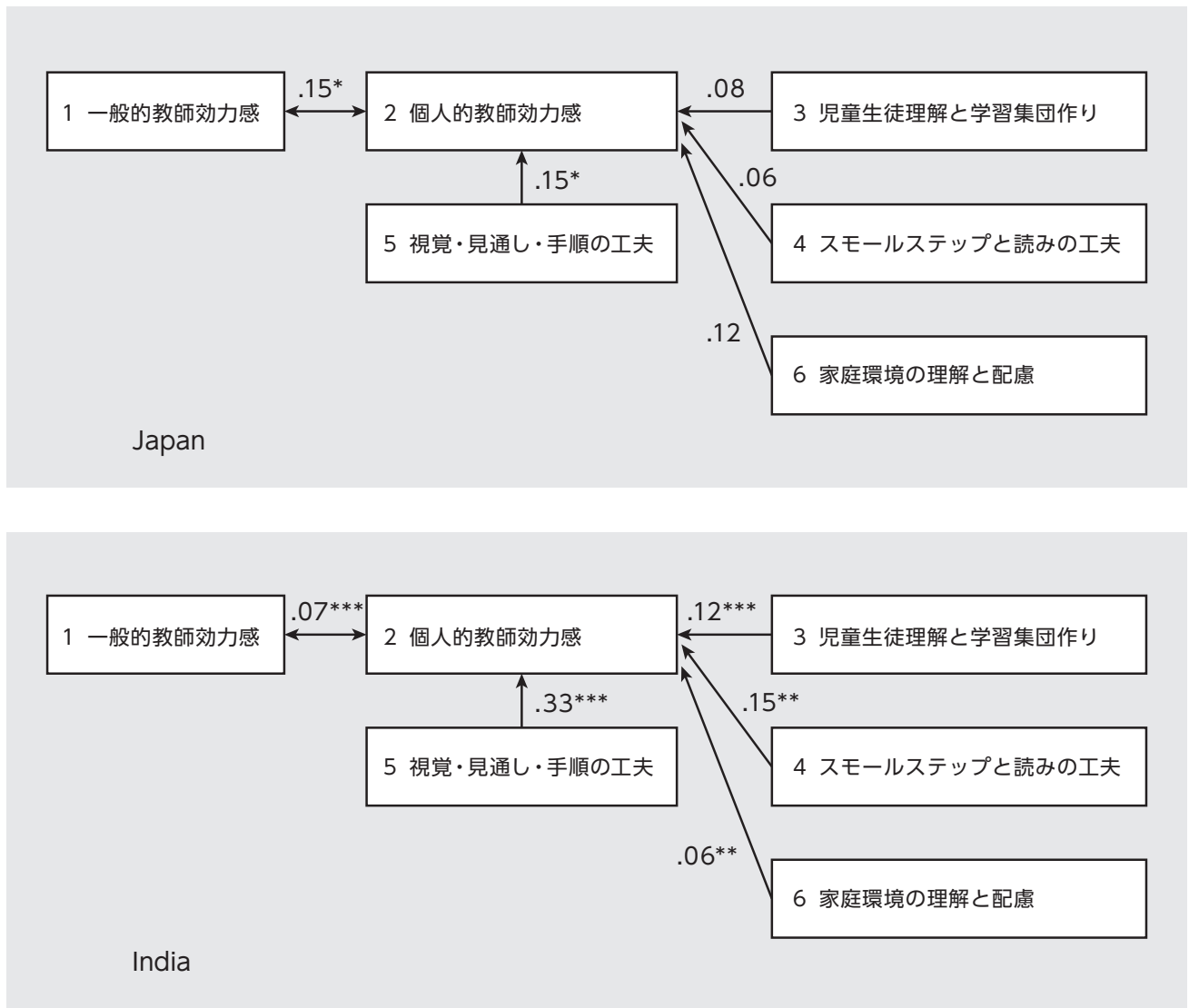
Figure 2

インドの教師は、「ルールと責任の明確化」を重視した。また「教科指導に専念する」こと、「コミュニケーションを図りつつ、教師に敬意を持たせる」ことを行っていた。さらに「頻繁な保護者会」や「インクルーシブ教育と分離教育」が行われていた。また、「子どもの感覚を刺激するモンテッソーリ教育の学校」などの多様な学校があった。

一方、日本の教師は、「児童理解を経験で自分のものとし、子どもとつながる工夫」をしながら「発達段階の理解と個と集団への対応」と「担任教師の意志とスキルで特別なニーズ教育を行いつつ集団に方向性を持たせる」ことをしていた。また「保護者への対応は児童への対応が基本」としていた。さらに「失敗から学ぶ教師の姿勢」を大切にしつつ「報告連絡相談とその再構成によって、主任へと成長」していた。

(4) 日本とインドの通常学級におけるインクルーシブ教育

次に、日本とインドの2集団を対象として多母集団同時分析による分析を行った。その結果を Figure3 に示す。



*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$,

Figure 3 推定結果 注) 矢印は影響を及ぼす関係 双方向の矢印は共分散の関係

インドの教師は、日本の教師と比較して、「家庭環境理解と配慮」「児童生徒理解と学習集団作り」による「個人的教授効力感」への影響が大きいことが示された。

日本の教師は、インドの教師に比べ「個人的教授効力感」と「教師の一般的効力感」の分散が大きいことが示された。

期待されること

インドの教師は、児童に問題があれば「頻繁な保護者会」が行われていた。つまり「頻繁に保護者を学校に呼んでいた。インドの教師は子供のために教師や家族と協力しなければならない。また、子どもの家庭環境を理解して、配慮しなければならない。家庭と協力しなければ、「個人的教授効力感」は増加しないであろう。インドの教師は、家庭と協力しなければ、教師のやりがいや失う可能性がある。具体的には、日本の児童理解や「家庭環境理解と配慮」を取り入れ、通常学級におけるインクルーシブ教育や学級経営を促進する必要があるであろう。そして、結果として、児童にとって居心地のよい学級となり、修了率の改善につながる。貧困・児童婚の予防のためには、学校教育の果たす役割は大きい。

日本の教師は、インドの教師と比較し「個人的教授効力感」と「教師の一般的効力感」に大きなばらつきがある。また、インドの教師の前向きな姿勢が明らかになった。日本の教師の効力感をあげるためには、日本の学級経営の特徴を理解し、教師以外の専門家を活かす必要があるであろう。例えば、スクールカウンセラーは、児童だけでなく、個々の教師をサポートするためにも働く必要がある。そしてチームとしての学校を実現することが重要であろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 3件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 Ishikawa, M., Matsumoto, M., Ramalingam, P. & Kamal, U. | 4. 巻 Vol. 3, No.1 |
| 2. 論文標題 Impact of Educational Guidance of Inclusive Education in Regular Classes and on Teacher Efficacy in India and Japan | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Asia Pacific School Psychology | 6. 最初と最後の頁 84-94 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Michiko Ishikawa, Miyuki Matsumoto, Panch. Ramalingam | 4. 巻 Vol. 2, No.1 |
| 2. 論文標題 Development of Scale for Japanese Style Class Management: Comparison with Indian Class Management | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Asia Pacific School Psychology | 6. 最初と最後の頁 26 - 36 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 石川美智子 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 学級居心地尺度の開発と、友達関係とのモデルの検討 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 常葉大学教育学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 41-48 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002114 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Matsumoto, M., Ishikawa, M., & Gopal, B. | 4. 巻 Vol. 1, No.2 |
| 2. 論文標題 Japanese classroom management among preservice teachers in relation to the teacher belief, the teacher efficacy | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Asia Pacific School Psychology | 6. 最初と最後の頁 166-176 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Michiko Ishikawa, Miyuki Matsumoto, Ramalingam Panch, Tomoko Suzuki | 4. 巻 1(2) |
| 2. 論文標題 Development of scale for Japanese Style class management: Comparison with Indian class management | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Asia Pacific school Psychology | 6. 最初と最後の頁 13-23 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Michiko Ishikawa, Miyuki Matsumoto, Makoto Odagiri, Koichi Nakamura | 4. 巻 1(2) |
| 2. 論文標題 Indian Classroom Management among Elementary School Teachers in India | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Asia Pacific school Psychology | 6. 最初と最後の頁 24-34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 石川美智子・松本みゆき | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 通常学級におけるインクルーシブ教育学習指導、個人的な教授効力感、健康、学校環境の多忙におけるモデルの検討 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 常葉大学教職大学院研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 1-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Ramalingam Panch, Michiko Ishikawa | 4. 巻 1(2) |
| 2. 論文標題 International Seminar on Developing the Japanese Style Classroom Management Model in Japan and India | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Asia Pacific school Psychology News letter | 6. 最初と最後の頁 7 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 石川美智子・松本みゆき | 4. 巻 35 |
| 2. 論文標題 インドの教育制度と課題 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 常葉大学外国語学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 29-44 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計14件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 11件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Ishikawa Michiko・Miyuki Matsumoto・Hitomi Kuwayama |
| 2. 発表標題 Japanese and Indian teachers' educational guidance of inclusive education in regular classes and teacher efficacy |
| 3. 学会等名 ISPA 2021 Nicosia, Cyprus 42nd Annual HYBRID Conference of the International School Psychology Association (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Ishikawa Michiko , Miyuki Matsumoto , Hitomi Kuwayama |
| 2. 発表標題 Japanese and Indian Teachers' Perceptions of the Efficacy" of Inclusive Education |
| 3. 学会等名 The Asia Pacific School Psychology Association (APSPA) 2nd International Conference on Contemporary Challenges and Advancements in School Psychology (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Miyuki Matsu, Michiko Ishikawa |
| 2. 発表標題 Ayatori: Learning Techniques for Children's Cognitive Development/New Classroom Management for Health and Safety |
| 3. 学会等名 Bangladesh School Psychology Association: BSPS (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 Ishikawa, M, Matsumoto, M |
| 2 . 発表標題 COVID-19 Mental Health and Education in Japan |
| 3 . 学会等名 Asia Pacific Association of School Psychologists: APSPA: Level 3 (招待講演) (国際学会) |
| 4 . 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 Ishikawa, M., Matsumoto, M. |
| 2 . 発表標題 The world of COVID-19 : New class management/education |
| 3 . 学会等名 Asia Pacific Association of School Psychologists: APSPA: Level 2 (招待講演) (国際学会) |
| 4 . 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1 . 発表者名 Ishikawa, M., Matsumoto, M. |
| 2 . 発表標題 COVID-19 measures in Japan and restart of school: Home/school/society collaboration |
| 3 . 学会等名 Asia Pacific Association of School Psychologists:Level 1 (招待講演) (国際学会) |
| 4 . 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1 . 発表者名 Michiko Ishikawa,Miyuki Matsumoto,Makoto Odagiri,Koichi Nakamura,Ramalingam Panch, Tomoko Suzuki |
| 2 . 発表標題 Developing a Japanese Style Classroom Management Model in Japan and India; Aiming to contribute towards development of Asia through classroom management |
| 3 . 学会等名 Asia Pacific School Psychology Association International Conference on School Psychology Sri Lanka the science program (招待講演) (国際学会) |
| 4 . 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Michiko Ishikawa,Miyuki Matsumoto,Makoto Odagiri,Koichi Nakamura,Ramalingam Panch, Tomoko Suzuki |
| 2. 発表標題 International Workshop On cognizance of the Japanese Style of Teaching Learning Behavior Model in indian Context |
| 3. 学会等名 International Workshop in VIT University (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Michiko Ishikawa,Miyuki Matsumoto,Makoto Odagiri,Koichi Nakamura, |
| 2. 発表標題 International Seminar on Developing the Japanese Style Classroom Management Model in Japan and India |
| 3. 学会等名 Asia Pacific School Psychology Association International Conference in Pondicherry University (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Michiko Ishikawa,Miyuki Matsumoto,Makoto Odagiri,Koichi Nakamura, |
| 2. 発表標題 Developing the Japanese Style Classroom Management Model in Japan and India |
| 3. 学会等名 International Seminar in Subramania Bharathi Higher Secondary School (招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Michiko Ishikawa,Miyuki Matsumoto,Makoto Odagiri,Koichi Nakamura, |
| 2. 発表標題 International Seminar on Developing the Japanese Style Classroom Management Model in Japan and India |
| 3. 学会等名 Achariya School Private State Board school (招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Miyuki Matsumoto, Michiko Ishikawa, Eleanora Nallu E C, K. R. Santhosh |
| 2. 発表標題 Creating a Scale for Japanese Teachers' Guidance of Inclusive education in Regular Classes |
| 3. 学会等名 International School Psychological Association in Basel (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Miyuki Matsumoto, Michiko Ishikawa, Eleanora Nallu E C, & K. R. Santhosh |
| 2. 発表標題 Compare the Classroom Management Style Between Japan and India |
| 3. 学会等名 International Conference on Solution Focused Practices 2018 (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石川美智子・松本みゆき・K.R.Santhosh, ・Eleanora, Nallu |
| 2. 発表標題 インドと日本の学級経営-小学校教師の聞き取り調査 |
| 3. 学会等名 常葉大学学内学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計8件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 読者の皆さんからの質問に答えます 係活動を考える | |

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 読者の皆さんからの質問に答えます！ | |

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 学級経営の悩み | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真・石川美智子 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 一人はみんなのために？ 教師の掲示板から | |

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 目標を立てるだけなら誰でもできる！ | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 学級経営目標を立てるのも「あなた」です！ | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 学級経営者の「朝」！ すてきな1日をスタートするために！ | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小田切真 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 時事通信社 | 5. 総ページ数 2 |
| 3. 書名 教員養成セミナー 学級を経営するのはあなたです！ | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

インドキリスト大学人文社会学部学部長トニー・サム・ジョージ博士が表敬訪問
<https://www.tokoha-u.ac.jp/news/180515-1/>

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---------------------------------|----|
| 研究分担者 | 小田切 真 (Odagiri Makoto) (30298450) | 常葉大学・教育学部・教授 (33801) | |
| 研究分担者 | 中村 孝一 (Nakamujra Koichi) (30329510) | 常葉大学・教育学部・教授 (33801) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------------|---|----|
| 研究協力者 | 桑山 仁美 (Kuwayama Hitomi) | 愛知県立農業高校・講師 | |
| 研究協力者 | 村田 朝子 (Murata Asako) | 半田市役所・特任保育士 | |
| 研究協力者 | ラマリンガム (Ramalingam Panch) | ボンディシェリ大学 インド・UGC - Human Resource Development Centre・Associate Professor | |
| 研究協力者 | ジョージ (George Tony Sam) | クライスト大学 インド・Social Sciences Additional Director, Center for Research・Professor & Dean | |
| 研究協力者 | ウディン (Uddin Muhammad Kamal) | ダッカ大学 バングラディッシュ・Department of Psychology PhD in Psychology・Professor | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究協力者 | サントッシュヨ (Santhosh K.R.) | クライスト大学 インド・Department of Psychology・Assistant Professor | |
| 研究協力者 | 鈴木 とも子 (Suzuki Tomoko) | オーロピル インド | |
| 研究協力者 | 鈴木 修 (Suzuki Osamu) | 名古屋産業大学・情報センター (33935) | |
| 研究協力者 | 鈴木 洋二 (Suzuki Yozi) | 名古屋産業大学・情報センター (33935) | |
| 連携研究者 | 松本 みゆき (Matsumoto Miyuki) (20883276) | 名古屋大学・高等教育研究センター・特任准教授 (13901) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---------|-------------------------------|-------------------|--|--|
| インド | Pondicherry University, India | Christ University | | |
| バングラデシュ | University of Dhaka | | | |
| インド | Pondicherry University | Christ University | Vellore Institute of Technlgy University | |